

博士課程教育リーディングプログラム

フォーラム2016参加報告書

日時： 2016年11月11日(金)～12日(土)

場所： ヒルトン東京お台場

参加者：履修生 田中雄大（一期生 D2）、森岡俊文（一期生 D2）、井坂祐輔（二期生 D1）、
秦 大（二期生 D1）、

教員 木村剛先生、飯島賢二先生、馬場基彰先生、臼井秀知先生、森本祐麻先生、
鈴木晴先生

参加報告

今回のフォーラムには全国のリーディングプログラム、33大学、62プログラム、149の企業にお声掛けして、1,000名を越える参加者があった。カデットからは、履修生4名（1期生2名、2期生2名）、教員6名が参加した。本年度はプログラムの修了生が初めて実社会に出て行く年度であり、産業界にもリーディング生をアピールする全体企画で、プログラム履修生のキャリアパス形成をテーマに関する議論がなされた。

冒頭の招へい講演では産業界から産業構造が世界規模で大きく変化している時代にあって、深い専門性と俯瞰力を兼ね備えた人材が必要とされており、リーディング生への期待が産業界から語られた。また、産学ラウンドテーブルでは、産業界、文部科学省、国際機関の責任者がリーディングプログラムの活動を踏まえた博士人材に対する期待と、これからの大学院教育の在り方についてパネル討論がなされたが、いずれもリーディング履修生の具体的な活動シーンまでイメージできる内容にはなっておらず、日本社会における博士人材の位置づけを垣間見る事が出来た。

来春社会に巣立つ履修生によるラウンドテーブルでは、リーディング大学院での経験を基に意見交がなされ、プログラムの取組みの中で、どれだけの気付きが得られるかがその人の成長につながる事、プログラムの取組み課題等が語られた。

1日目の最後に意見交換会として、履修生が自己アピールのパネルの前で、企業の人事担当者や技術者と意見交換を行った。カデット生のパネルでは研究内容について活発な議論がなされ、物質科学系の企業の期待の一面を読み取ることが出来た。軽食や飲物も提供され、企業の方との交流もさることながら、履修生間の交流も活発に行われた。

2日目には日本学術振興会理事の家先生からリーディングプログラムの現状が、また文部科学省の井上室長からは、ポストリーディングに関する説明があった。

また、出口討論分科会では、博士課程を修了して様々な分野で活躍する社会経験5年~10年の若手がパネラーとなり、実社会での活動状況やキャリアパスに対する考え方などが披露され、参加した履修生には参考になることが多かった様です。

参加した学生からは、丸紅の朝田会長や G&S Global Advisors Inc. 代表の橘様などから、産業界で必要とされる博士人材に関するお話を拝聴することができ、今後のキャリアパスを改めて考えさせられる良い機会となりました。また、来春から産業界に進出するリーディング生の討論会では、共感できることや新たな発見もあり、自分を見つめ直す良いきっかけになりました。といった感想が寄せられています。

